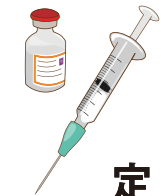


子宮頸がんワクチン



定期接種 対象は
小学校六年生から高校一年生女子
男性は自費で受けられます



先生のご紹介

大坪修介

大坪こどもクリニック 院長

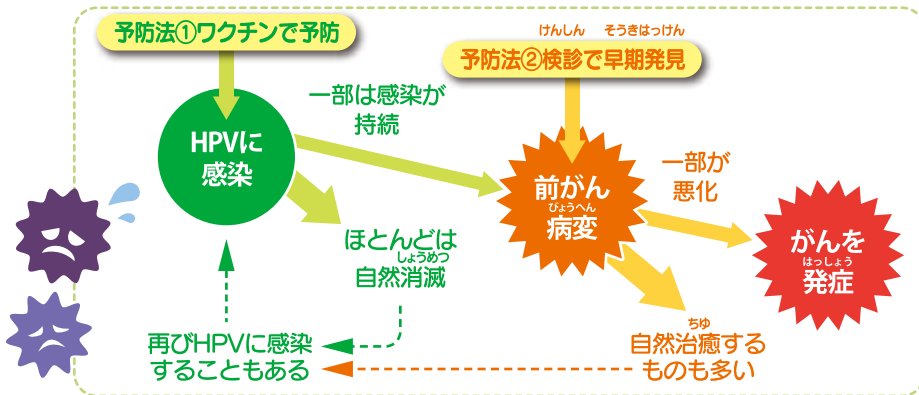
PROFILE

熊本大学卒。卒業後鹿児島大学小児科入局。小児科・小児神経専門医。医学博士。鹿児島大学医学部臨床教授。一人ひとりを大切に、誠意をもった診療を心がけています。

子宮頸がんワクチンってご存じでしょうか。日本では子宮頸がんは毎年約一万人が罹患し約2800人が亡くなっています。患者数、死亡者数ともに増加傾向で、発症は20代後半から40代と若い世代が中心です。これを予防しようとして2013年4月から予防接種法に基づき定期接種化されましたが、接種後の広範な疼痛、運動障害などの多様な症状が報告され、マスコミでも副作用として大々的に報道されました。そのためわずか2か月後には「積極的に勧めることを中止します」と、厚労省のホームページに記載され、現在多くの子ども達が受けないまま接種対象年齢を過ぎてしまっています。

一方、欧米の多くの国では2006年〜2008年に9歳〜13歳の女兒を対象にした定期接種が開始、継続され、10年以上経った現在、その成果として子宮頸がんの前がん病変が有意に低下してきています。さらには予防接種を受けなかった人までがんを引き起こす型のウイルス感染が低下するという集団免疫まで確認されるようになりました。接種に最初から一生懸命だったオーストラリアでは子宮頸がんは2020年には稀ながんへ、2028年には排除へ、そして2034年には子宮頸がんがなくなる人はほぼいなくなるかと推計される、という報告も出てきました。このように海外ではがんを撲滅するという華々しい成果を上げて

子宮頸がんの進行と2つの予防法



つあるワクチンですが、日本ではほとんど接種されずにそのまま成人し、好発年齢になっているのが実情です。子宮頸がんの原因は、性的接触に

よって感染するヒトパピローマウイルス（HPV）です。そのため、ワクチンを接種してウイルスの感染を防ぐことで、子宮頸がんを予防できると考えられています。現在使用されているHPVワクチンは、子宮頸がんの原因の50〜70%を占める2つのタイプ（HPV16型と18型）のウイルスの感染を防いでくれます。（**予防法①**）

世界保健機構はこのワクチンの安全性を2013年から繰り返し示し、2017年7月にも極めて安全であるとの見解を示しています。日本でも2017年9月までの統計で、予防接種救済制度の対象となった人は0.008%で極めて安心できるワクチンと言えます。しかし、健康な人に打つ予防接種ですので、その後の体調の変化は注意してみいく必要があります。もちろん全てが予防接種のせいであるとは思いませんが、苦しい思いをしている人がいることは事実であり、理解し、寄り添ってあげる気持ちを持つ必要があると考えます。

なお、現行のワクチンだけでは子宮頸がん全てを予防できず、鹿児島市は20歳以上の女性全てに2年ごとの婦人科検診を勧めています。（**予防法②**）

2月24日から新しいワクチンが発売されました。より多くのウイルスの型に有効で子宮頸がん予防率をこれまでの6、7割から9割に引き上げるのではと期待されています。ただ定期接種に

なるにはまだ時間がかかりそうです。待つのではなくまずは現行の予防接種を受けておく方がよいと思います。保健所に連絡すれば無料券が送られてきます。同封される書類で理解を深められると思います。また、このワクチンが男性も受けられるようになりまして、尖圭コンジローマに有効とのことですが、性行為で感染させるのであれば男性側も全員定期の予防接種として受けて、日本でもがんを引き起こすHPVを社会全体から排除、子宮頸がんゼロを期待したいですね。



<https://www.otsubo.org>

大坪こどもクリニック 日・祝日 休診

時 朝 昼 夕
月 〇 〇 〇
火 〇 〇 〇
水 〇 〇 〇
木 〇 〇 〇
金 〇 〇 〇
土 〇 〇 〇

〒890-0034
鹿児島市田上2-15-11
TEL.099-286-6121
FAX.099-286-6127

※日曜・祝日休診

